宮崎大学
University of Miyazaki
～世界を視野に 地域から始めよう～

報道発表

令和４年１２月２日

各報道機関　　御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（１１月分）の配信について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元
宮崎大学企画総務部総務広報課
TEL：0985-58-7114　FAX：0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和４年１１月分）

1. 宮崎大学生と「テゲバジャーロ宮崎」の選手が考案した
   スタジアムグルメの試食会を実施
2. 農学工学総合研究科「英語による農工大学院生研究発表会」を開催
3. 聖心ウルスラ学園聡明中学校 1、2 年生が宮崎大学を訪問
4. 宮崎大学基金へのご寄附に対する感謝状を贈呈
5. チアダンス部「Daisy Girls」が京セラドーム大阪で躍動
6. 本学から 2 人の名誉教授が令和 4 年秋の叙勲「瑞宝中綬章」を受章！！
7. 宮崎市と宮崎大学による『バングラデシュとの ICT 産業連携に関するセミナー』
   を開催
8. 大学祭実行委員長と副委員長が鮫島浩学長を表敬訪問
9. 若手職員が学長・理事に大学を取り巻く現状を報告
10. シンガーソングライターの永吉愛さんが特別講師として来学！
11. 第 12 回宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター国際シンポジウムを開催
12. 宮崎大学祭「清花祭」を 3 年ぶりに対面開催
13. 宮崎大学長がノースサウス大学を訪問
14. 清山宮崎市長が大学生に講演
15. JA 宮崎中央様・JA 共済連宮崎様から乗用草刈り機を寄贈していただきました
16. 大学発ベンチャー企業「株式会社 Smolt（スモルト）」が生産する「つきみいくら®」が
    ANA 国際線ファーストクラスで提供開始
17. 宮崎大学クラウドファンディング第 2 号プロジェクトが成立しました

1. 宮崎大学生と「テゲバジャーロ宮崎」の選手が考案した スタジアムグルメの試食会を実施

令和 4 年 10 月 28 日（金）、宮崎県初のプロサッカーチームであるテゲバジャーロ宮崎の選手 4 人（石井健太選手、綿引康選手、清水羅偉選手、小川真輝選手）とスタッフ２名が宮崎大学を訪れ、試食会ならびに意見交換会を行いました。

宮崎大学地域資源創成学部の企業マネジメントコースの丹生晃隆研究室（技術経営・ベンチャー）では、2 年生のプロジェクトの一つとして、テゲバジャーロ宮崎の選手、出店店舗、パートナー企業と協働してスタジアムグルメ企画を進めています。

これまで学生と選手は、計 3 回にわたってオンラインミーティングを行い、4 名の選手それぞれが熱い想いを込めて学生と一緒にスタジアムグルメのメニューを考案してきました。

スタジアムグルメのメニューは、テゲバジャーロ宮崎のスポンサーである江夏商事ホールディングス株式会社様から鶏肉を児湯食鳥協同組合様からはたまごをご提供いただき、初の対面での試食会ならびに意見交換会の場が設けられました。

試食会を終えて、石井選手からは、「このスタジアムグルメを食べていただいた方が、またこれを食べに来たい！と思ってもらえるような良い商品を作っていきましょう」と激励があり、学生からは「選手のみなさんからいただいたご意見を基にさらに改良を重ねていきたい。このスタジアムグルメを食べてスタジアムをより盛り上げていけるようサポートをしていきたい」と意気込みが述べられました。

今回考案した商品は、今シーズンのホーム（ユニリーバスタジアム新富）最終戦となる 11 月 13 日（日）のテゲバジャーロ宮崎 vs 松本山雅 FC 戦で販売される予定です。

2. 農学工学総合研究科「英語による農工大学院生研究発表会」を開催

令和 4 年 11 月 1 日（火）に農学工学総合研究科「英語による農工大学院生研究発表会」を創立３３０記念交流会館にて開催しました。今年度も、昨年度と同様に新型コロナウィルス感染症対策を行い、会場人数の関係上、博士課程学生及び博士課程入学予定の学生、グローバル人材育成の学生、関係教職員のみで開催しました。

本発表会は 2008 年から毎年開催されており、募集案内、講演要旨集などの書類と司会、

プレゼンテーション、表彰式など全ての進行を英語のみで行っています。

本年は、学生２０名（うち留学生１３名）がショートプレゼンテーションとポスタープレゼンテーションを通じて、英語で発表、質疑応答を行いました。

多数の農学工学総合研究科教員による厳正な審査の結果、学長賞（Outstanding Presentation Award）1名（Ye Htet さん）、研究科長賞（Excellent Presentation Award）2名（Novia Lusiana さん、Nichawee Jongsawatsataporn さん）が表彰されました。受賞者3名以外にも多くの優れた発表が行われ、今後の研究の発展が大いに期待される発表会となりました。

3. 聖心ウルスラ学園聡明中学校1、2年生が宮崎大学を訪問

令和4年11月2日（水）、聖心ウルスラ学園聡明中学校1、2年生86名が宮崎大学を訪問。広報担当者が宮崎大学紹介映像などを交えながら大学全体の説明を行いました。

本学では、コロナ下においても感染対策を徹底した上で、県内外からの大学訪問を受け入れています。また、11月19日(土)・20日(日)には、大学祭「清花祭」を開催します。沢山の皆様のお越しをお待ちしております。

4. 宮崎大学基金へのご寄附に対する感謝状を贈呈

令和4年11月2日（水）、宮崎大学基金（一般基金）に対し多額のご寄附をくださいました齊藤総一郎様（文化グループ代表取締役社長）へ感謝状を贈呈式しました。

贈呈式では、齊藤様から、「学生時代の青臭さ（未熟さ）は、それぞれの夢を叶えるための大切なこと。失敗を恐れず何度でも挑戦し続けて欲しい。宮崎大学には、そのような学生が輝ける場を作っていただきたいし、そのような大学づくりをお願いしたい。」との熱い思いを語られました。

鮫島学長から「この度の多額のご寄附に対し心より感謝申し上げます。齊藤様の思いを形にできるよう、魅力ある大学づくりや教育・研究・地域貢献等の発展のために有効に活用させていただきます。」との謝辞が述べられました。

5. チアダンス部「Daisy Girls」が京セラドーム大阪で躍動

令和4年11月3日（木）、京セラドーム大阪で行われている第47回社会人野球日本選手権１回戦(宮崎梅田学園-日本新薬)で、宮崎大学チアダンス部である「Daisy Girls」の６人がアルプススタンドを沸かせました。

宮崎梅田学園は、10月に宮崎市内で行われた九州地区大会を突破し、2回目となる日本選手権での悲願の初勝利を目指して日本新薬（京都府）に挑みました。残念ながら、相手の好投手を打ち崩すことができず、初戦敗退となりましたが、仕事と野球を両立させ、大舞台までやってきた選手の健闘を多くの観客が讃えていました。

そして、この試合を応援で盛り上げたのは、宮崎大学の学生さんでした。宮崎梅田学園の依頼を受けて参加することになり、授業等の関係で6人の参加に留まりましたが、Daisy Girlsにとっては初めての全国大会の舞台で、選手達に負けないような熱い演技で応援をリードしていました。

Daisy Girlsは、11月19日-20日に開催される大学祭（清花祭）などでも公演予定で、ダンスでみんなを笑顔にしてくれる彼女たちの更なる活躍が期待されます。

6. 本学から2人の名誉教授が令和4年秋の叙勲「瑞宝中綬章」を受章！！

令和4年11月3日（木）、日本国政府は叙勲・褒章などの受章者を発表し、芋生紘志名誉教授と中川義朗名誉教授が瑞宝中綬章を受章しました。内閣府では、春秋叙勲として、年2回（4月29日と11月3日)、各界の功労者に対して叙勲を授与しており、瑞宝中綬章は、公務等に長年にわたり従事し、成績を上げた者に贈られる勲章です。芋生名誉教授は、平成20年3月に退職されるまでの37年間を宮崎大学教育学部（教育文化学部）の教員として、生物学分野において本学の教育・研究に大きく貢献したことが評価されました。

中川名誉教授は、宮崎大学・熊本大学・熊本学園大学などで約50年間を教員として、行政法・地方自治等の公法学分野における教育・研究に大きく貢献したことが評価されました。また、元宮崎大学事務局長の大谷潔氏も、瑞宝双光章を受章しました。大谷氏は、平成16年4月～平成19年3月までの3年間を本学事務局長として務められました。

7. 宮崎市と宮崎大学による『バングラデシュとの ICT 産業連携に関するセミナー』を開催

令和 4 年 11 月 4 日（金)、宮崎大学まちなかキャンパスにおいて、「バングラデシュとの ICT 産業連携に関するセミナー」を開催し、宮崎県内の ICT 企業 7 社・10 名、宮崎市観光商工部 3 名、宮崎大学関係者 6 名の計 19 名が参加しました。

宮崎市（代表）と宮崎大学（実施機関）は、産官学連携によるバングラデシュ高度 ICT 人材導入事業「宮崎-バングラデシュ・モデル」とその後継事業の B-JET を背景に、経済成長率著しいバングラデシュとの関わりを人材導入から産業連携へ展開していく試みとして、令和 4 年 4 月から JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠)「バングラデシュ国 宮崎－バングラデシュ ICT 人材育成事業：B-MEET（Bangladesh-Miyazaki ICT Engineers` Educational Training)」を開始しています。セミナーは、金岡保之教授（宮崎大学国際連携センター副センター長）から、自身の ICT 分野における取り組みなどを交えて挨拶があり、矢野靖典助教（国際連携センター）から、バングラデシュの文化、日本・宮崎との関わりについて紹介されました。次いで、同国の発展目覚ましい ICT 分野の魅力について、宮崎へのバングラデシュ人材導入を支援する株式会社ビーアンドエムの荻野紗由理代表取締役が説明し、B-JET 事業・B-MEET 事業について田阪真之介特別教授（国際連携センター）が経緯と現在の状況や今後の発展性について説明。最後に、宮崎市観光商工部長の原田六十志様より、今後の B-MEET 事業の発展への期待を寄せた挨拶をいただき、閉会となりました。バングラデシュは産業連携、オフショア開発など様々な可能性を秘めており、最近では新たに ICT の経済特区が設けられるなど、日本との経済交流のさらなる発展が見込まれています。本セミナーに参加した企業の多くが、本年 11 月後半に現地での渡航視察を行う予定としており、宮崎大学が産学官の強固な連携を主導し、宮崎県とバングラデシュの間での ICT を中心とした経済交流が活発になり、双方の更なる経済発展が期待されます。

8. 大学祭実行委員長と副委員長が鮫島浩学長を表敬訪問

令和４年 11 月７日（月）、大学祭実行委員会委員長である地域資源創成学部２年の圖師 健太郎さんと副委員長である地域資源創成学部２年厚地凌吾さんが鮫島学長を表敬訪問しました。3 年ぶりの対面開催となる今回の大学祭（清花祭）のテーマは「撥雲見天（はつうんけんてん）」。

二人は、このテーマに込めた思いを伝えるとともに、予定されているイベント内容などを鮫島学長に説明し、鮫島学長からは「ケガや事故のないように気を付けながら、思い切り楽しんでやってください」と激励の言葉が述べられました。

9. 若手職員が学長・理事に大学を取り巻く現状を報告

令和４年 11 月９日（水）、宮崎大学の若手職員が本学の幹部メンバーに対して、18 歳人口の推移や大学進学率などの大学を取り巻く現状をはじめ、宮崎大学における志願者数の推移、外国人留学生数の推移、論文数や今後の財務状況の見通しなどを取り纏めた「宮大ファクトブック Ver.１現状分析」の報告を行いました。

本報告会は、令和３年１１月から体制を新たにした「学長戦略企画室（※）」（以下、戦略室）の第１期メンバー若手職員５名が中心となり、学長、理事、メンバーの所属長へこれまでの成果発表を兼ねて開催されました。戦略室では、宮崎大学の将来ビジョン実現のために、一年間で４７回のミーティングをはじめ、外部資金の獲得、業務改善等の様々なプロジェクトに関わっており、その集大成として取り組んだのがファクトブックでした。

報告者の一人である中原智晃さん（財務部財務課）は、宮崎大学の財務状況の推移と今後の予測を示しながら「教職員一人ひとりが本学の財務状況を知り、その課題としっかり向き合わなければ、第４期中期目標期間内（令和９年度内）にも深刻な予算不足に陥る可能性があり、教職員全員が一丸となった財政改革が必要となる」と提言しました。

最後に、鮫島学長から「教員も職員も、立場を越えて大学経営に関わっていかなければならない。何より、これからの時代は職員が積極的に企画し、大学を引っ張っていってほしい」との講評があり、11 月以降新たに戦略室メンバーとなる８名の若手職員に辞令が交付されました。

10. シンガーソングライターの永吉愛さんが特別講師として来学！

令和 4 年 11 月 11 日（金）、創立 330 記念交流会館ホールにおいて、教育学部専門科目「中等国語科教育法Ⅲ」の特別講義がシンガーソングライターの永吉愛さんを講師として迎えて行われました。

この講義は、科目担当の永吉寛行准教授が以前永吉愛さんのライブを訪れた際、「一歩～ippo～」という楽曲を聴いて感動し、またその曲が学校現場で合唱曲としてアレンジ使用されていることを知ったことから、永吉愛さんに特別講師を依頼したところ快諾していただいたことから実現したもので、今回で３回目。国語科教育を専門とする教員を目指す学生に、学校現場での合唱指導を想定して、「詞（詩）」のイメージを子どもたちに持たせることを効果的に指導する力を身に付けることを目的として行われました。

学生からは「詞の意味を考えて歌に込められた思いを明らかにするという活動を実際に作詞された方の前で行うというのがとても貴重な経験だった」「詞が誰に対するものか、あるいは自分に向けたものなのか等を考えることで、より歌が自分の中に入ってきて、それが将来教員になった時の合唱指導において大切になってくるのだと思った」といった感想が聞かれました。

講義の最後には、永吉愛さんが今回の題材となった「一歩～ippo～」と、ぜひ宮崎の小学生に広めたいという「Sun!Sun!宮崎!」をピアノ弾き語りで披露していただきました。

11. 第 12 回宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター国際シンポジウムを開催

令和 4 年 11 月 16 日（水）、宮崎大学 330 記念交流会館において、第 12 回宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター（CADIC）国際シンポジウムが開催され、オンライン視聴も含めて 100 名を超える参加がありました。

世界的な人口増におけるタンパク源供給不足問題のために、アジアにおける畜産業発展には大きな期待が寄せられています。しかしながら、アジア諸国においては、安心・安全な畜産物の安定供給のために、国際的な家畜衛生と食品の安全の向上が大きな課題となっています。その中でも、輸出制限に関わる重要家畜伝染病の清浄化と、生産された畜産物の食品衛生管理の国際基準である危害分析重要管理点方式(HACCP)による高度衛生管理が不可欠となっています。

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター(CADIC)では、このような獣医学が責務を持つ家畜感染症防御の先端研究に取り組み、またこのような研究内容を現場に還元できる人材育成を行ってきました。現在問題となる国際的な家畜感染症防疫のためには、我が国のみならずアジア、世界的な視点からの取り組みが不可欠です。

今回は、第 1 部では、アジアにおける獣医学教育ネットワークの現状と課題を国際獣疫事務局、タイ、インドネシアから 3 名の講師に紹介していただき、加えてアジアにおける家畜感染症の教育・研究拠点を目指してきた CADIC の創設 2010 年来の取り組みを紹介しました。また、第 2 部では、CADIC の構築しているアジア獣医学ネットワークにおける研究内容を紹介しました。

12. 宮崎大学祭「清花祭」を 3 年ぶりに対面開催

令和 4 年 11 月 19 日（土）と 20 日（日）の 2 日間にわたって、宮崎大学祭「清花祭（きよかさい)」が 3 年ぶりに対面形式にて開催されました。

今回のスローガンは、『撥雲見天（はつうんけんてん)』。未来を遮るコロナの脅威をかき分けてようやく青空のごとく開けた視界、そこに新たな学園祭の一歩を踏み出そうという想いが込められています。

初日はあいにくの雨模様となり、運営スタッフが準備に苦慮する中での開始となりましたが、スターティングイベントとして行われた吹奏楽部の演奏には多数の観客に来ていただきました。２日目からは、スローガンに込めた学生さんの気持ちが乗り移ったのか、徐々に天候も回復しはじめ、木花と清武の両キャンパスには多数の人が駆けつけ大いに盛り上がりました。

また、大学祭に合わせて、大学開放イベント「みやだい Waku Waku 体験 Day」や「テクノフェスタ」、「アドベンチャー工学部」、「農学部の日」なども同時開催され、キャンパスには子どもから大人まで多数の人にお越しいただきました。

13. 宮崎大学長がノースサウス大学を訪問

令和 4 年 11 月 20 日（日）、鮫島浩宮崎大学学長がノースサウス大学（バングラデシュ）を訪問し、B-JET センター開所式に参加しました。

B-JET(Bangladesh - Japan ICT Engineers' Training Program)は、2016 年に宮崎市、IT 企業、本学が中心となって、同国の優秀な ICT 技術者に日本語教育を行い、日本・宮崎への留学・就業を推進する産学官連携事業で、「宮崎-バングラデシュ・モデル」として国内外から高い評価を受けています。

2017～2021 年に JICA 事業として展開された後、2021 年からは（株）新興出版社啓林館からの寄附講座により本学の履修証明プログラムとして３年間の予定で実施されており、2017 年から現在までに累計約 370 人が参加、うち約 210 人が宮崎を初めとする日本国内の IT 企業に就職しています。

今回は、バングラデシュ国側のカウンターパートで、本学協定校であるノースサウス大学の敷地内に、B-JET 生の日本語教育施設である B-JET センターが設置されたことから、本学学長が開所式に出席するための訪問となりました。

また、同日夜ダッカ市内ホテルで開催された BASIS（バングラデシュ・ソフトウェア情報サービス協会）主催の「Japan Day 2022」には、日本側から伊藤駐バングラデシュ日本国大使、現地進出企業、JICA、JETRO 等が参加。バングラデシュ国側から担当大臣等をはじめ、総勢約 250 名が参加するなか、鮫島学長が BASIS との間で B-MEET 事業実施にかかる協力協定を締結しました。

14. 清山宮崎市長が大学生に講演

令和 4 年 11 月 24 日（木）、宮崎大学 330 記念交流会館で「宮崎 TOP セミナー（宮崎市長編）」を開催しました。

今回のセミナーは、「学生の学生による学生のためのセミナー」として、TOP セミナー学生企画部の学生が企画・運営に携わって実施されました。120 名を超える参加があり、清山知憲宮崎市長からのご講演に加えて、「宮崎市をずっと住みたいまちにするためには」をテーマに、市長と学生登壇者とのディスカッションも行われました。参加した学生は、熱心にメモを取りながら、市長のお話に耳を傾け、会場からもディスカッションに参加して発言するなど、大変盛り上がったセミナーになりました。

15. JA 宮崎中央様・JA 共済連宮崎様から乗用草刈り機を寄贈していただきました

令和 4 年 11 月 30 日(水)、宮崎大学農学部附属木花フィールドにて、乗用草刈り機の寄附目録贈呈式が行われ、寄附目録となるキーレプリカを贈呈していただきました。

これは、JA 宮崎中央会および JA 共済連宮崎が、次世代の農業就農者に求められる知識・技術の習得支援を目的として寄贈されたものです。

贈呈式には、JA 宮崎中央代表理事組合長の栗原俊朗氏、JA 共済連宮崎事業支援部長の柳田充氏をはじめとする関係者立会のもと行われ、大学生を代表して吉村珠李さん（農学部植物生産環境科学科 3 年）から「大学の講義や実習を通じて、農場周辺の環境整備の重要性を知った。寄贈いただいた草刈り機を有効活用して大学の農場の環境整備に役立てます」と御礼の言葉が述べられました。

宮崎大学では、今後も地域の企業や自治体と密接に連携しながら、本県の畜産業の更なる発展に貢献できるように人材育成に努めてまいります。

16. 大学発ベンチャー企業「株式会社 Smolt（スモルト）」が生産する「つきみいくら®」が ANA 国際線ファーストクラスで提供開始

宮崎大学発ベンチャー企業である株式会社 Smolt（本社：宮崎県宮崎市、代表取締役社長：宮崎大学大学院農学工学総合研究科 上野賢）が生産する「つきみいくら®」が、ANA 国際線ファーストクラス機内食、和食メニューの一品にて“つきみいくら”を提供されることになりました。

それに伴い、令和 4 年 11 月 30 日、全日本空輸株式会社宮崎支店、ANA あきんど株式会社宮崎支店、株式会社 Smolt 及び宮崎大学による共同記者発表を宮崎大学地域デザイン棟にて行いました。

まずはじめに、鮫島学長から「宮崎大学発のベンチャー企業である Smolt の商品が採用されたことをとても嬉しく思います」と述べられ、株式会社 Smolt の上野社長からは、「今回の採用によりまさに宮崎大学が掲げる『世界を視野に 地域から始めよう』のスローガンに近づくことができたのではないかと感じている。このことをきっかけにサステナブルな食の体験を世界中の多くの人に体験していただきたい」と意気込みが述べられました。

17. 宮崎大学クラウドファンディング第２号プロジェクトが成立しました

令和４年 10 月１２日～11 月 30 日の期間で実施していました

『 牛の命を、牛伝染性リンパ腫から守りたい。簡便な検査の全国展開へ！ 』のクラウドファンディングが目標金額の159%を達成し、無事成立となりました。多くの皆様からのご支援とご理解に深く感謝申し上げます。

１．タイトル：　牛の命を、牛伝染性リンパ腫から守りたい。簡便な検査の全国展開へ！

２．実行者：　関口　敏（農学部　獣医学科　准教授）

３．目標金額：　550 万円　→　成立額：874.6 万

４．資金使途：　受託検査の整備費

５．実施期間：　令和 4 年 10 月 12 日（水）～令和 4 年 11 月 30 日（水）